

桑原城

～諏訪氏滅亡の場に悠久の思いを寄せて～

訪問日 2023/8/2

- 所在

長野県諏訪市



図 1. 左・民家の横の電柱についでる看板。なぜここに？右・山に立ててある看板。この山が桑原城址である。

- 遺跡概要

土塁などが多少見て取れる程度。

諏訪氏の本拠地、上原城の支城という扱い。典型的な山城であり、上原城より戦闘に特化したつくりになっている。山城好きなら必見。

- 登城路

図 1 左の看板のある所から道なりに進んでいく。まあまあ進んでいく。すると図 2 のような看板が見えてくる。ここが登城口である。登城口は二つある？ようである。（もう一つは山の裏側かな？）



図 2. 登り口の看板。登り口は二つあるらしい。今回はここから登った。

- 桑原城跡

図2の場所から山道を上がっていく。この先は城跡だ。ころせよ。余談であるが、登城口にある看板によると、諏訪頼重はこの桑原城で決戦をしようとしたらしいが、夕方に武田方の様子を見るために山を少し降りたところ、それを見た兵士たちが、頼重が逃げたと勘違いして、みんな逃げてしまい、どうしようもない感じになったとのことだ。いつの時代も人望を保つのは難しいらしい。以上余談であった。

図3の左と右下のような山道を登っていくことになる。階段が整備してあったりするので、決して難関ではないので、ある程度気楽に登っていける。



図3. 左・登城口から続く山道。この奥の山が城のあった場所。右上・登城口に設置されている説明看板。諏訪頼重の降伏や諏訪氏滅亡までの流れが書いてある。右下・少し登っていった先の風景。山である。

主要部分は、本丸と二の丸、東曲輪、首塚、西曲輪となっている。それぞれの図を以下に示す。



図 4. 左・東曲輪。写真右側の山が本丸。順路は左奥。右・東曲輪横にある首塚。その名の通り首塚。下・東曲輪から二の丸に向かう通路。もはや自然の中に消えていきそうである。



図 5. 左・二の丸。奥に見えるのが諏訪湖だ。右・二の丸と本丸の間にある空堀。画面奥が本丸。この地形はそそるZE。下・二の丸から見下ろした西曲輪。草が生い茂っていてなにがなんだかわからなかった。



図6. 上・本丸。結構広い。中・本丸にある看板。桑原城の主要部分の概略図もついている。助かる。下・本丸の東曲輪に面した部分にある土塁。こういうのが好き

● まとめ

諏訪の地を、眼下に見下ろすこの城は、支配の象徴か。草木に埋もれるこの城は、消えゆく事象の追憶か。響く真夏の虫の音は、来る新時代への賛美か。

武田の時代が、この諏訪の地に到来した、その時、その瞬間は、この城にどう刻まれているのか。それを読み解いてみよう。そこには、あまりにも儂い最期が、そして、巡り巡る因果があった。武田氏の行く末を知る者だからこそ行き着く答え。

歴史に耳を澄まし、ほんの少し目を閉じて。感じたものを知識に伝え、世界の軌跡を再構築する。そしてまた、自分の生活に戻ってくる。我ながら崇高な趣味だと思っている下賤なオレである。

著者・林慎太郎



図 6. 上・二の丸から見える諏訪湖（諏訪市）。まことに絶景である。